

② 重要な群落

対象事業実施区域及びその周囲の重要な群落は、表 3.1-33(1) 及び図 3.1-23 のとおり、「第 3 回自然環境保全基礎調査動植物分布図」（環境庁、昭和 56 年）及び「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁自然保護局 生物多様性センター、平成 12 年）において、「田谷地沼の沼沢地植物群落」、「南北かば谷地の沼沢地植物群落」の 2 件が特定植物群落に、「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（宮城県環境生活部自然保護課、平成 28 年）において「田谷地沼のハンノキーカサスゲ群落」、「荒沢湖沼群地域の沼沢地植物群落」、「荒沢のハンノキーミズバショウ群落」、「菓菜山のブナ群落」、「菓菜山のサワグルミ・トチノキ群落」の 5 件が希少な植物群落に指定されている。

また、「植物群落レッドデータ・ブック」（NACS-J, WWF Japan、平成 8 年）において、27 件の植物群落が指定されているが、詳細な位置情報は公表されていない。

重要な群落として植生自然度 10 及び 9 に該当する植生についても抽出した。1/2.5 万植生図の統一凡例に対応する植生自然度は、表 3.1-33(2) 及び図 3.1-23 のとおりであり、対象事業実施区域内の一部に植生自然度 9 が分布している。

表 3.1-33(1) 文献その他の資料による重要な植物群落

名称	選定基準		
	④	⑤	⑥
田谷地沼の沼沢地植物群落		D	
南北かぼ谷地の沼沢地植物群落		D	
田谷地沼のハンノキカササゲ群落	2		
荒沢湖沼群地域の沼沢地植物群落	2		
荒沢のハンノキミズバショウ群落	2		
薬菜山のブナ群落	1		
薬菜山のサワグルミ・トチノキ群落	1		
キタゴヨウ群落			4
クロベ群落			4
前森のサワグルミ・トチノキ林			2
サワグルミ群落			4
トチノキ群落			4
船形山北麓のブナ林			4
ブナ群落			4
ドロノキ群落			2
ハンノキ群落			1
ヤチダモ群落			1
ヒメヤシャブシ群落			4
ハイマツ群落			4
ミヤマナラ群落			4
ミヤマイヌノハナヒゲ群落			4
ゴウソ群落			4
ミツガシワ群落			4
ヨシ群落			1
ヨシ群落			4
エゾヒツジグサ群落			4
ジュンサイ群落			4
船形山の自然植生			4
魚取沼の沼辺植生			1
ウトウ沼の湿原植生			1
谷地平湿原の湿生植物群落			1
商人沼の沼沢植生			4
大滝川地回り地沼沢植生			2
前森山の風穴植生			1

注：選定基準は表 3.1-31 のとおりである。

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」

(宮城県環境生活部自然保護課、平成 28 年)

「自然環境 Web-GIS 特定植物群落調査 第 3 回、第 5 回」(環境省 HP、閲覧：令和 3 年 9 月)

「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan、平成 8 年)

より作成

表 3.1-33(2) 文献その他の資料による植物の重要な群落重要な植物群落 (植生自然度)

選定基準	植生区分	1/2.5 万植生図 統一凡例
⑦		
植生自然度 10 (自然草原)	河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	貧養地小型植物群落、ヨシクラス、ツルヨシ群集、ヒルムシロクラス
植生自然度 9 (自然林)	ブナクラス域自然植生	チシマザサ・ブナ群団、イヌシデ・アカシデ群落、クロベ・キタゴヨウ群落、ジュウモンジシダ・サワグルミ群集、ケヤキ群落 (IV)、ハンノキ群落 (IV)、ヤナギ高木群落 (IV)、ヤナギ低木群落 (IV)、ヒメヤシャブシ・タニウツギ群落

注：1. 選定基準は、表 3.1-31 のとおりである。

2. 植生区分は現存植生図凡例 (表 3.1-29) による。

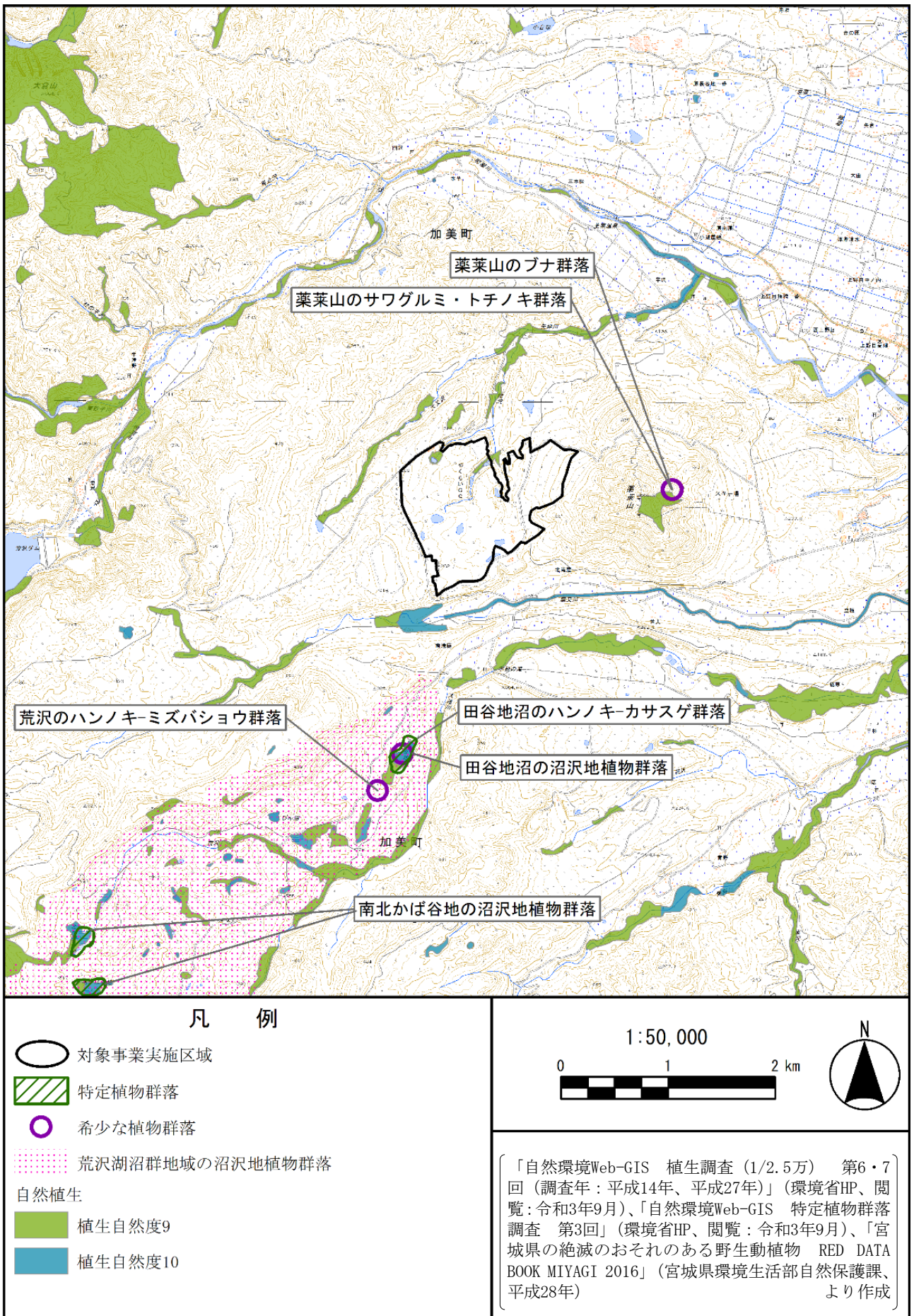
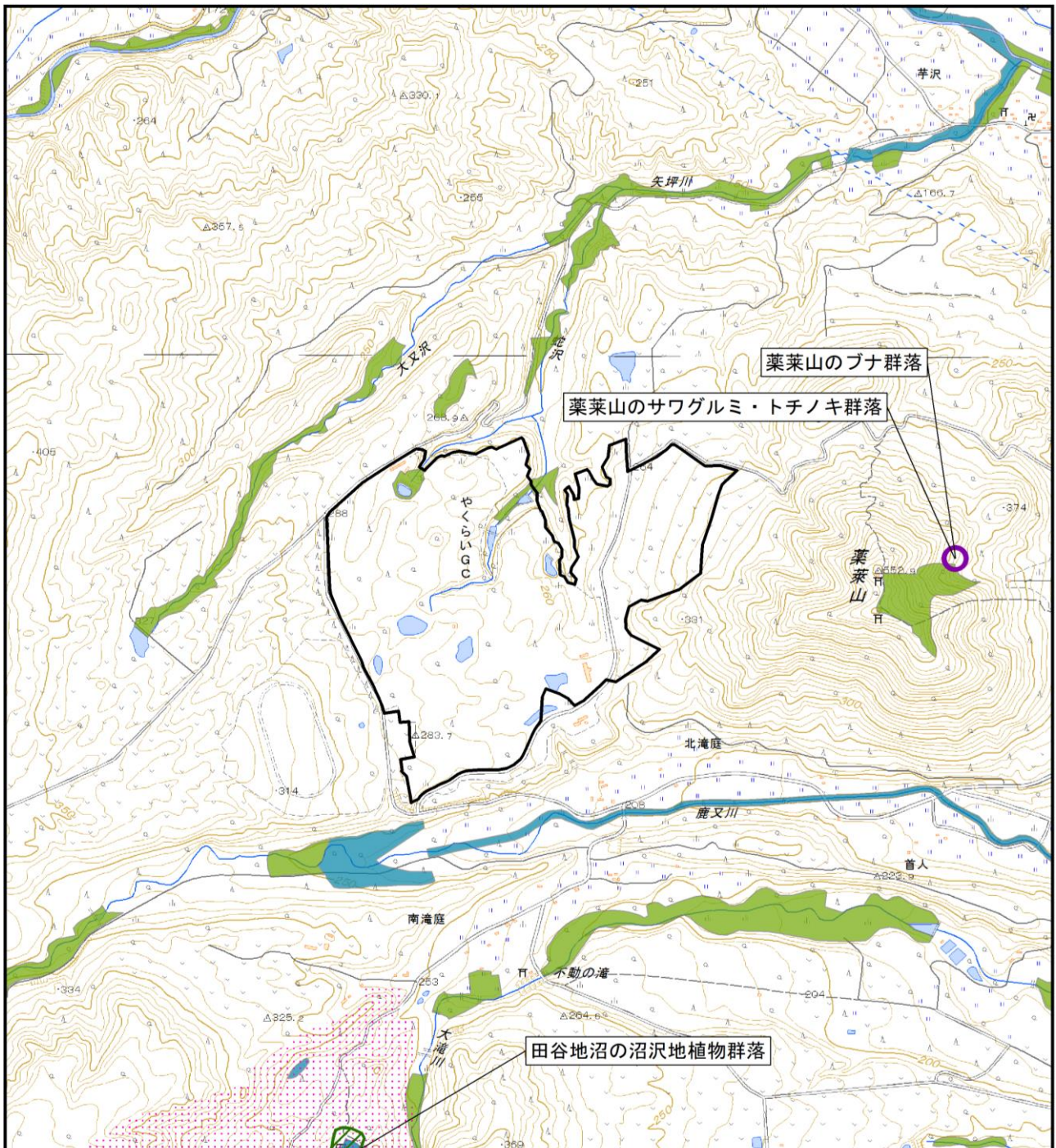


図 3.1-23(1) 文献その他の資料による重要な植物群落 (広域)



凡 例		1:25,000	
	対象事業実施区域		
	特定植物群落		
	希少な植物群落		
	荒沢湖沼群地域の沼沢地植物群落		
自然植生		<p>「自然環境Web-GIS 植生調査 (1/2.5万) 第6・7回 (調査年:平成14年、平成27年) (環境省HP、閲覧:令和3年9月)」、「自然環境Web-GIS 特定植物群落調査 第3回」(環境省HP、閲覧:令和3年9月)、「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(宮城県環境生活部自然保護課、平成28年)より作成</p>	
	植生自然度9		
	植生自然度10		

図 3.1-23 (2) 文献その他の資料による重要な植物群落 (拡大)

(4) 巨樹・巨木林・天然記念物

「巨樹・巨木林データベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 9 月）によると、表 3.1-34 のとおり、対象事業実施区域の周囲には、計 10 件の巨樹・巨木林が分布している。また、対象事業実施区域の周囲には、表 3.1-35 のとおり、加美町指定天然記念物である「荒沢の水ばしょう」及び「薬菜山のブナ林、サワグルミ、トチノキ林の原生林」が分布している。巨樹・巨木林及び天然記念物の分布位置は図 3.1-24 のとおりである。

なお、対象事業実施区域には巨樹・巨木林及び天然記念物は分布していない。

表 3.1-34 対象事業実施区域及びその周囲の巨樹・巨木林

番号	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	イチョウ	305	18
2	スギ	310	18
3	サイカチ	591	10
4	ケヤキ	315	15
5	イチョウ	398	20
6	イチョウ	295	20
7	モミ	303	21
8	アカマツ	310	21
9	イチョウ	338	17
10	ブナ	370	20

注：位置情報のある巨樹・巨木林については、図 3.1-24 のとおりである。

〔「巨樹・巨木林データベース」（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 9 月）より作成〕

表 3.1-35 対象事業実施区域及びその周囲の植物に係る天然記念物

市町村	指定	名称	指定年月日
加美町	町	荒沢の水ばしょう	昭和 53 年 6 月 15 日
		薬菜山のブナ林、サワグルミ、トチノキ林の原生林	平成 17 年 2 月 10 日

〔「文化財一覧」（加美町 HP、閲覧：令和 3 年 9 月）より作成〕

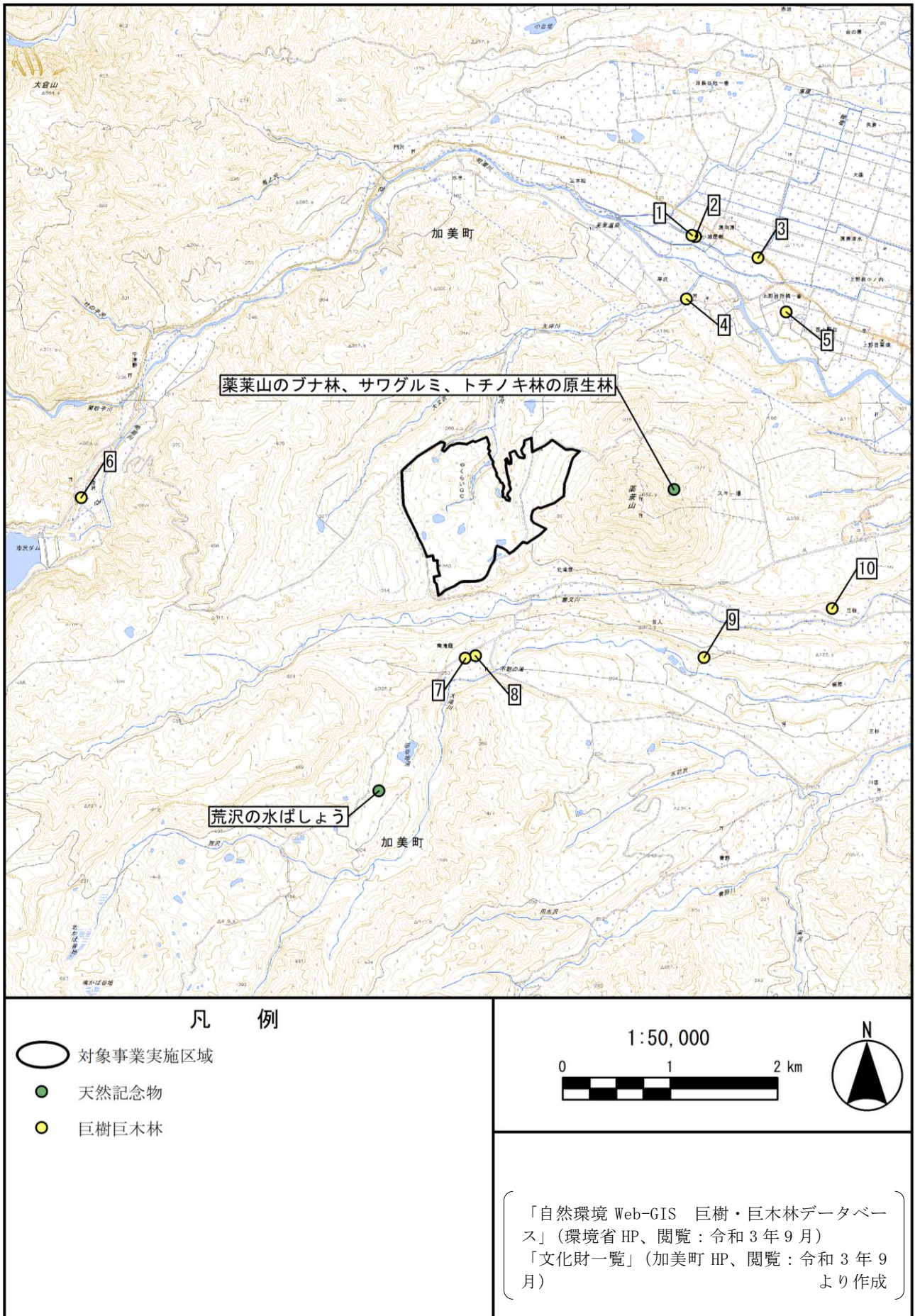


図 3.1-24 巨樹・巨木林及び天然記念物の分布位置

3. 生態系の状況

(1) 環境類型区分

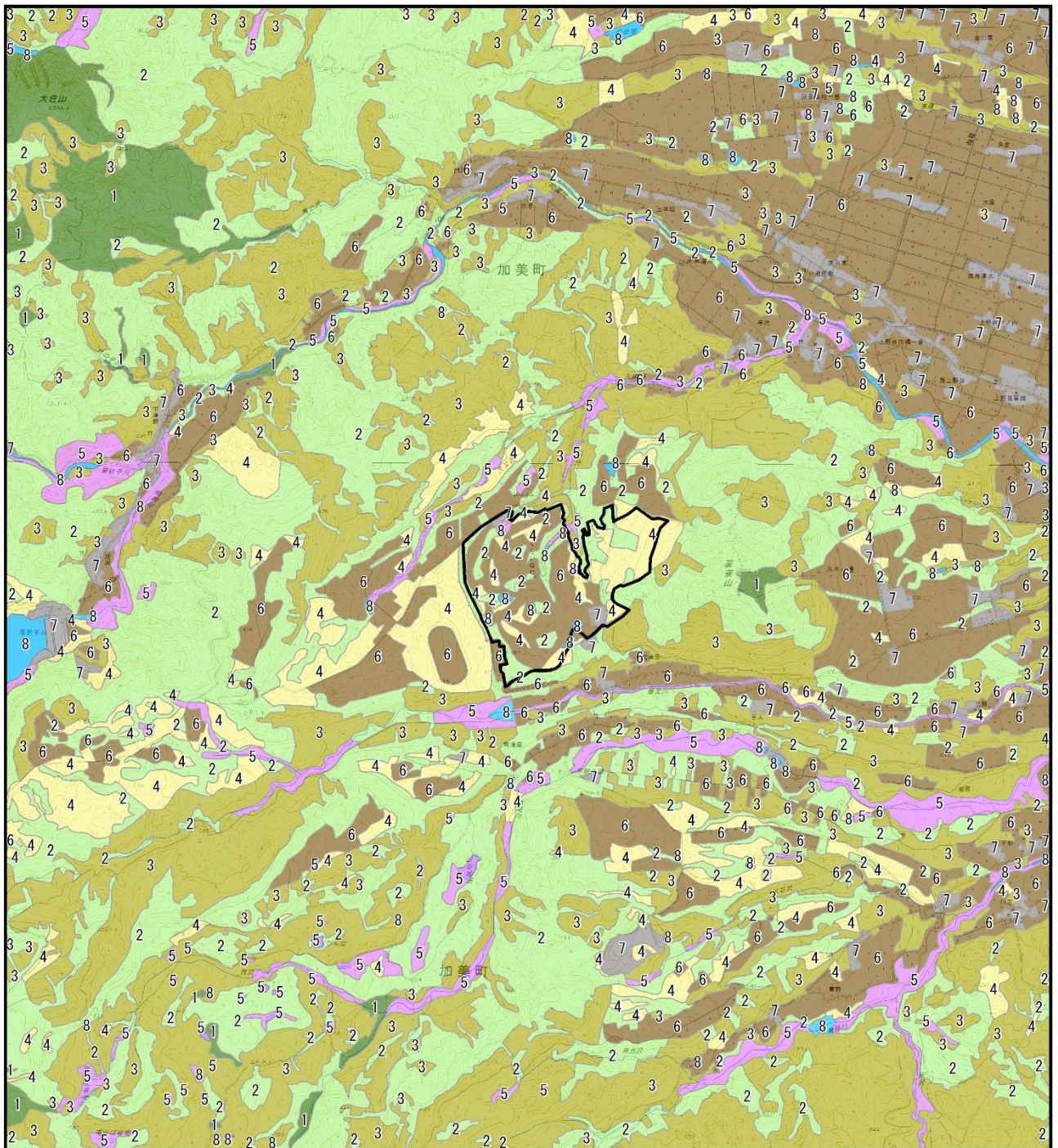
対象事業実施区域及びその周囲の環境類型区分は、表 3. 1-36 及び図 3. 1-25 のとおりである。対象事業実施区域及びその周囲の地形は、主に山地及び丘陵地、河川沿いに低地が分布しており、植生区分との対応関係により、自然林、二次林、植林地、草原・低木林、河辺・湿原、耕作地等、市街地等、河川・湖沼の 8 つの環境類型区分に分類される。

対象事業実施区域の環境類型区分は、主に東側が草原・低木林、西側が耕作地等となっている。










表 3. 1-36 環境類型区分の概要

環境類型区分	主な地形	植生区分
自然林	山地 丘陵地	チシマザサ-ブナ群団、イヌシデーアカシデ群落、クロベ-キタゴヨウ群落、ジュウモンジシダ-サワグルミ群集
二次林		ブナ-ミズナラ群落、オオバクロモジ-ミズナラ群集、コナラ群落（V）、オニグルミ群落、アカマツ群落（V）
植林地		スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、カラマツ植林、ニセアカシア群落、竹林
草原・低木林		ヒメヤシヤブシ-タニウツギ群落、タニウツギ-ノリウツギ群落、ササ群落（V）、ススキ群団（V）、伐採跡地群落（V）
河辺・湿原	山地 丘陵地 低地	ケヤキ群落、ハンノキ群落、ヤナギ高木群落（IV）、ヤナギ低木群落（IV）、貧養地小型植物群落、ヨシクラス、ツルヨシ群集、ヒルムシロクラス
耕作地等		ゴルフ場・芝地、牧草地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、果樹園、畑雑草群落、水田雑草群落、放棄水田雑草群落
市街地等		市街地、緑の多い住宅地、造成地
河川・湖沼	低地	開放水域

注：植生区分は現存植生図（図 3. 1-21 参照）による。



凡 例

- | | | | |
|---|-----------|---|----------|
|  | 対象事業実施区域 |  | 5, 河辺・湿原 |
|  | 1, 自然林 |  | 6, 耕作地等 |
|  | 2, 二次林 |  | 7, 市街地等 |
|  | 3, 植林地 |  | 8, 河川・湖沼 |
|  | 4, 草原・低木林 | | |

1:50,000

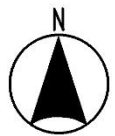
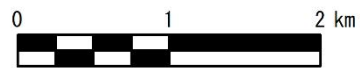


図 3.1-25(1) 環境類型区分 (広域)

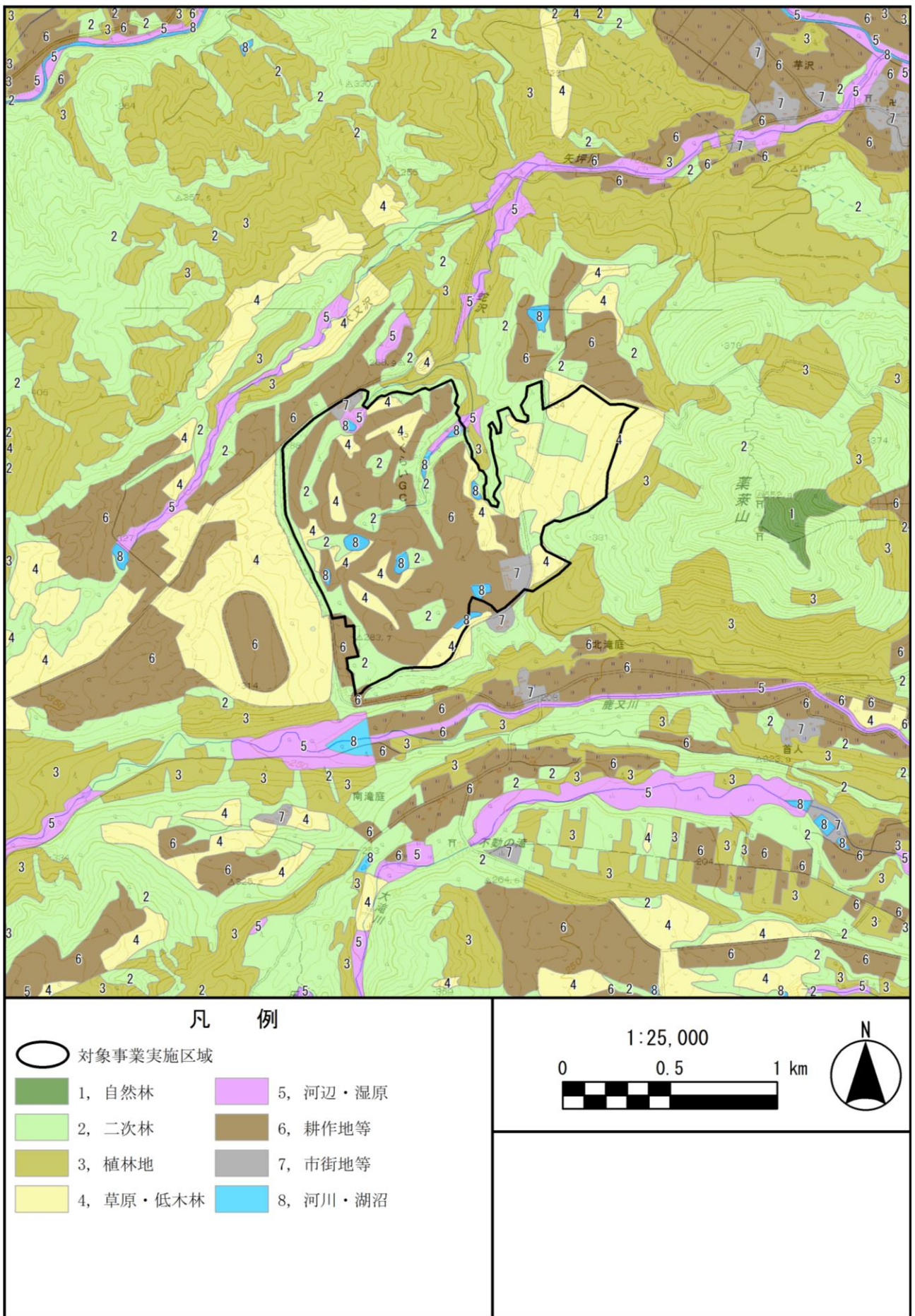


图 3.1-25(2) 環境類型区分 (拡大)

(2) 生態系の概要

地域の生態系（動植物群）を総合的に把握するために、文献その他の資料により確認された対象事業実施区域及びその周囲の環境及び生物種より、生物とその生息環境の関わり、また生物相互の関係について生物種等を選定し、食物連鎖の概要を整理した。食物連鎖模式図は図 3.1-26 のとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲は主にはコナラ群落等の二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林等の植林地、ススキ群団等の草原・低木林、ヤナギ高木群落等の河辺・湿原、ゴルフ場・芝地等の耕作地や草地環境が広がっている。コナラ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、ススキ群団、ヤナギ高木群落、芝地、水田雑草群落等に生育する植物を生産者として、第一次消費者としてはセミ類やガ類、バッタ類やチョウ類等の植食性の昆虫類や、ニホンノウサギ、ムササビ等の植食性の哺乳類が、第二次消費者としてはオサムシ類やトンボ類、カマキリ類等の肉食性昆虫類等が存在する。また、第三次消費者としてはヒメネズミ、アカネズミ等の哺乳類やキビタキ等の鳥類、シュレーゲルアオガエル等の両生類、ニホンカナヘビ等の爬虫類が、第四次消費者としてはニホンイタチ等の哺乳類、モズ等の鳥類、シマヘビ等の爬虫類が存在すると考えられる。さらに、低次消費者を餌とする高次消費者として、アカギツネ等の中型哺乳類やクマタカ等の猛禽類が存在すると考えられる。

河川・湖沼の水域の生態系では、付着藻類等を生産者として、第一次消費者である底生動物が、カジカガエル等の両生類やウグイ等の魚類に捕食される。さらに、これらを餌とするアオサギ等の鳥類が存在すると考えられる。

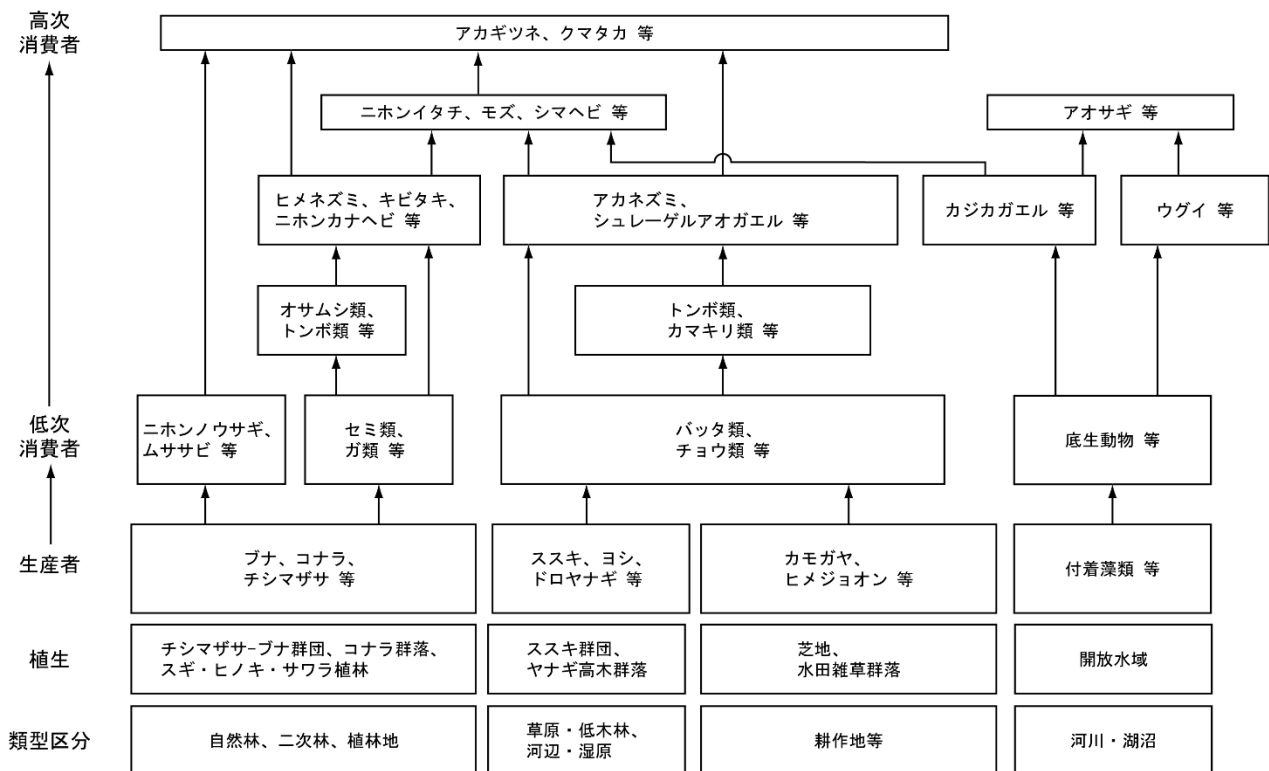


図 3.1-26 食物連鎖模式図

(3) 重要な自然環境のまとまりの場

対象事業実施区域及びその周囲の自然環境について、重要な自然環境のまとまりの場の抽出を行った。抽出された重要な自然環境のまとまりの場は、表 3.1-37 及び図 3.1-27 のとおりである。

表 3.1-37(1) 重要な自然環境のまとまりの場

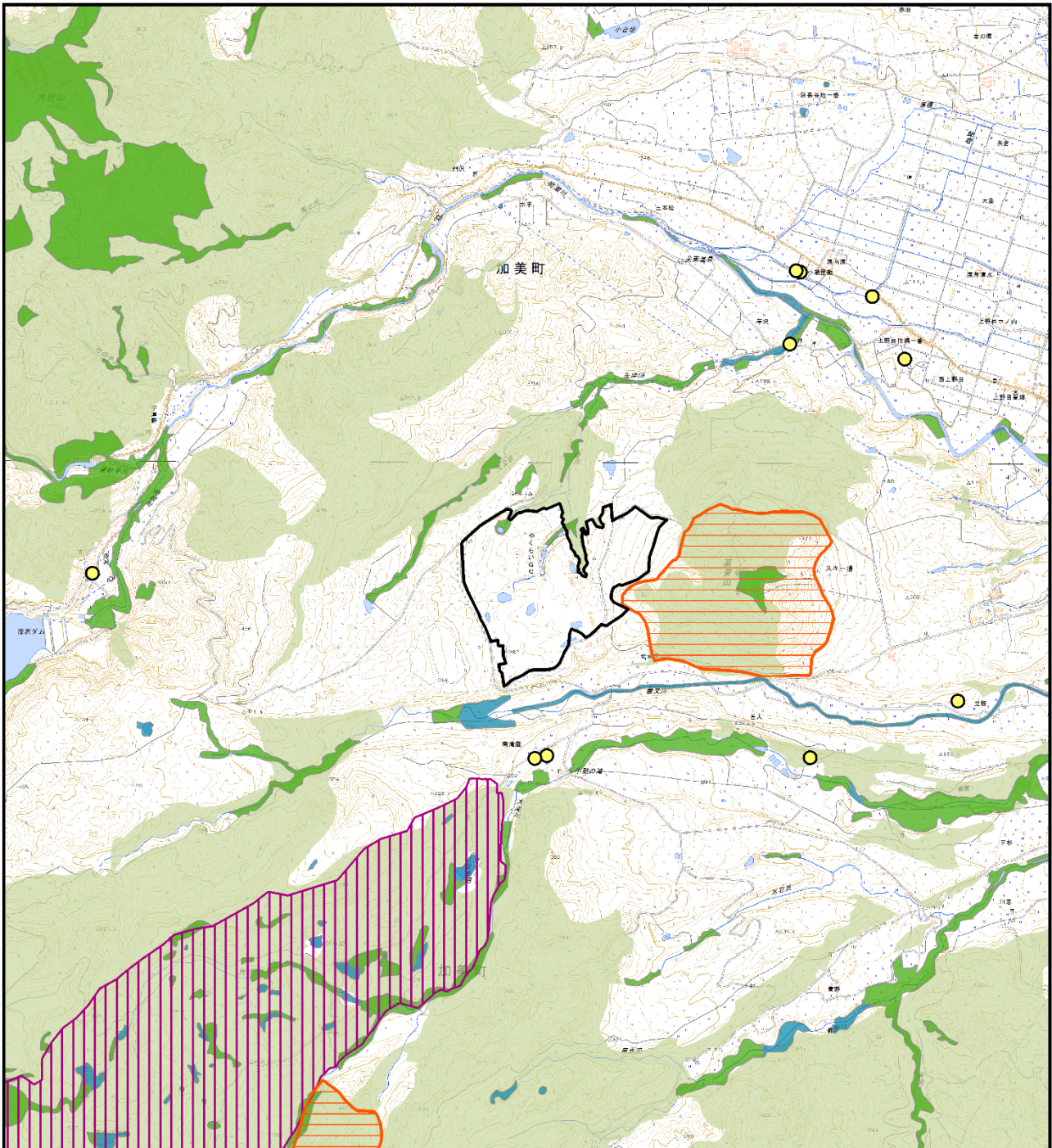
重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
自然植生	植生自然度 10	環境省植生図における貧養地小型植物群落、ヨシクラス、ツルヨシ群集、ヒルムシロクラスに該当する植生である。
	植生自然度 9	環境省植生図におけるチシマザサープナ群団、ケヤキ群落 (IV)、ヤナギ高木群落 (IV) 等に該当する植生である。
自然公園	県立自然公園船形連峰	自然公園法及びそれに基づく都道府県の条例の規定に基づき、その都道府県を代表する優れた風景地について指定された自然公園の一種である。 自然公園指定理由： 船形山をはじめとして、前船形山、蛇ヶ岳、三峰山、後白髪山、北泉ヶ岳、泉ヶ岳、楠峰、仙台カゴなどの群峰を有するすぐれた山岳景観を基調として、鏡ヶ池、鈴沼、白沼、長沼、及び桑沼などの湖沼、横川上流及び保野川上流などの山岳溪谷、三光の宮の溶岩流、崩壊現象を示す滑落崖、大倉ダムの丘陵地人工湖、さらには、薬菜山及び七ツ森などの親しみのある山容など特色ある変化に富んだ自然景観を呈している。この地域は、山容規模が大きく、表日本型植物（当時の表現、太平洋沿岸地域型の植物）と裏日本型植物（同、日本海沿岸地域型の植物）とが重複する地帯にあり、その植物相が豊富で、ハイマツ低木林、ブナ低木林、亜高山落葉広葉低木林、さらには、原始的なブナ林などを育てているほか、動物としては、高山獣のホンデオコジョなどの哺乳類をはじめ、鳥類、昆虫類、そして両生類などの多彩な動物相を育てている。
自然環境保全地域	荒沢県自然環境保全地域	地域内には池沼や湿地が多く、水生植物や湿生植物に特色のある種が豊富に見られる。自然植生のブナ林やコナラ林などの森林群落やこの地特有の湿生植物群落や水生植物群落も発達している。哺乳類では特別天然記念物であるニホンカモシカやツキノワグマなどが生息している。また、鳥類はアカショウビンをはじめオオタカやイヌワシ、サンショウクイなども生息している。この地域で特徴的な昆虫類はイトトンボ科であるカラカネイトトンボやルリイトトンボで県内唯一の生息地となっている。その他にも甲虫類であるエゾゲンゴロウモドキやキンイロハエクイムシなどの希少な種が多数生息している。
保安林		水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境である。
鳥獣保護区	大の原、薬菜山	鳥獣の保護を図るため、保護の必要があると認められた地域である。
特定植物群落	田谷地沼の沼沢地植物群落	自然環境保全基礎調査において定められた特定植物群落選定基準に該当する植物群落である。
	南北かば谷地の沼沢地植物群落	
巨樹・巨木林		自然環境保全基礎調査において定められた原則幹回りが 3m 以上の巨木及び巨木群である。
生物多様性の保全の鍵になる重要な地域 (KBA)	(選定基準：危機性) 蔵王・船形	選定基準における「危機性：IUCN のレッドリストの地域絶滅危惧種 (CR、EN、VU) に分類された種が生息／生育する」に該当する地域である。

表 3.1-37(2) 重要な自然環境のまとまりの場

重要湿地	田谷地沼、かば谷地、すげ沼湿地池沼群	<p>基準1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ湿地、藻場、サンゴ礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合</p> <p>基準2：希少種、固有種等が生育・生息している場合</p> <p>基準3：多様な生物相を有している場合</p>
------	--------------------	---

「自然環境 Web-GIS 植生調査 (1/2.5万) 第6・7回 (平成11年～24年/平成25年～)」(環境省 HP、閲覧：令和3年9月)、「国土数値情報」(国土交通省 HP、閲覧：令和3年9月)、「宮城県自然環境保全地域」(宮城県 HP、令和3年11月)、「令和2年度鳥獣保護区等位置図」(宮城県 HP、閲覧：令和3年9月)、「自然環境 Web-GIS 特定植物群落調査 第2回、第3回、第5回」(環境省 HP、閲覧：令和3年9月)、「自然環境 Web-GIS 巨樹・巨木林調査データベース」(環境省 HP、閲覧：令和3年9月)、「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域 (KBA)」(コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和3年9月)、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省 HP、閲覧：令和3年9月)

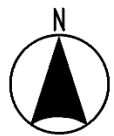
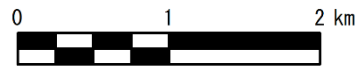
より作成



凡 例

-  対象事業実施区域
-  県立自然公園船形連峰
-  荒沢県自然環境保全地域
-  巨樹巨木林
-  植生自然度9
-  植生自然度10
-  保安林

1:50,000



「自然環境Web-GIS 植生調査 (1/2.5万) 第6・7回 (平成11年～24年/平成25年～)」(環境省HP、閲覧：令和3年9月)、「国土数値情報」(国土交通省HP、閲覧：令和3年9月)、「宮城県自然環境保全地域」(宮城県HP、令和3年11月)、「自然環境Web-GIS 巨樹・巨木林データベース」(環境省HP、閲覧：令和3年9月)より作成

図 3.1-27(1) 重要な自然環境のまとまりの場 (広域)

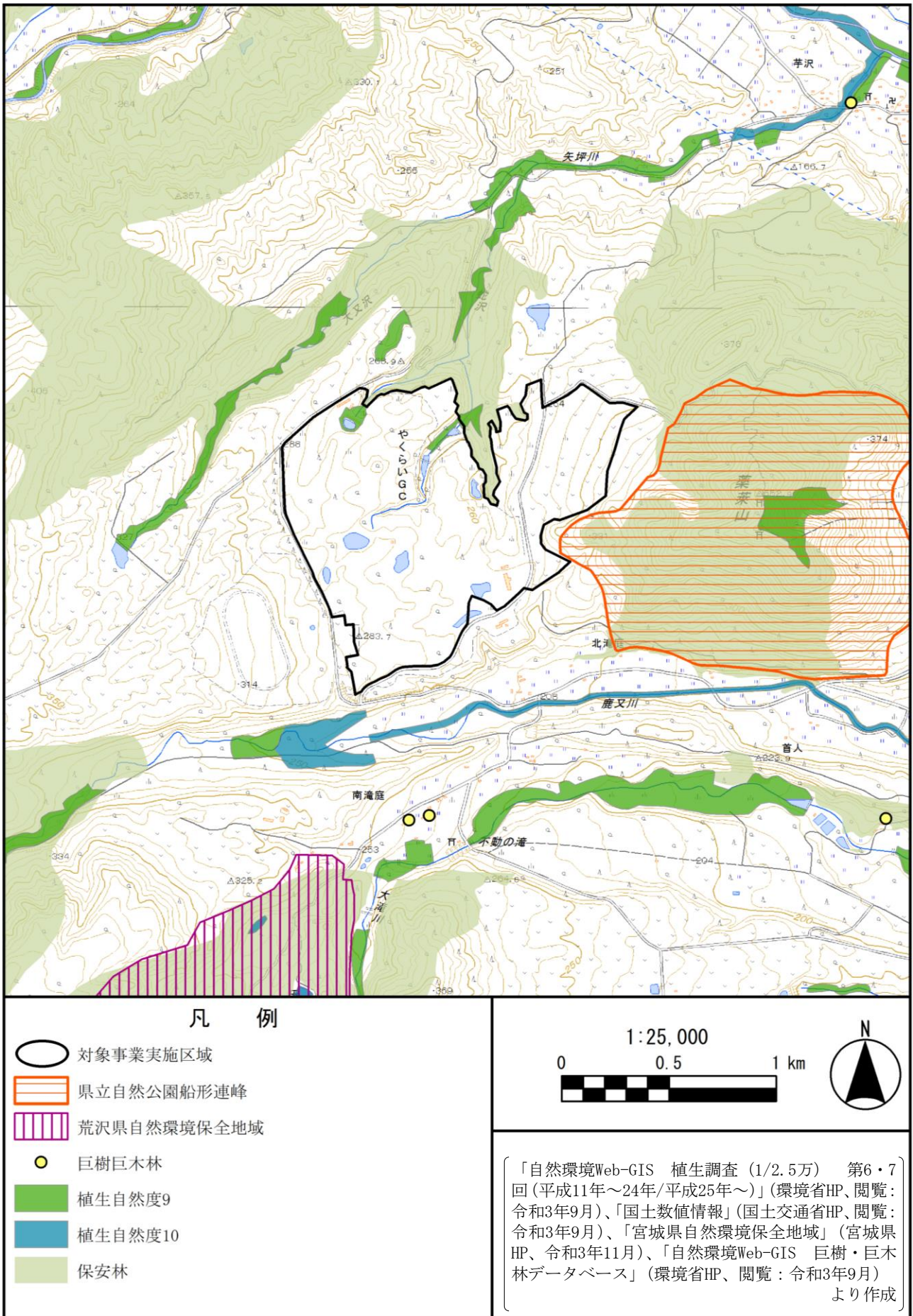


図 3.1-27(2) 重要な自然環境のまとまりの場 (拡大)

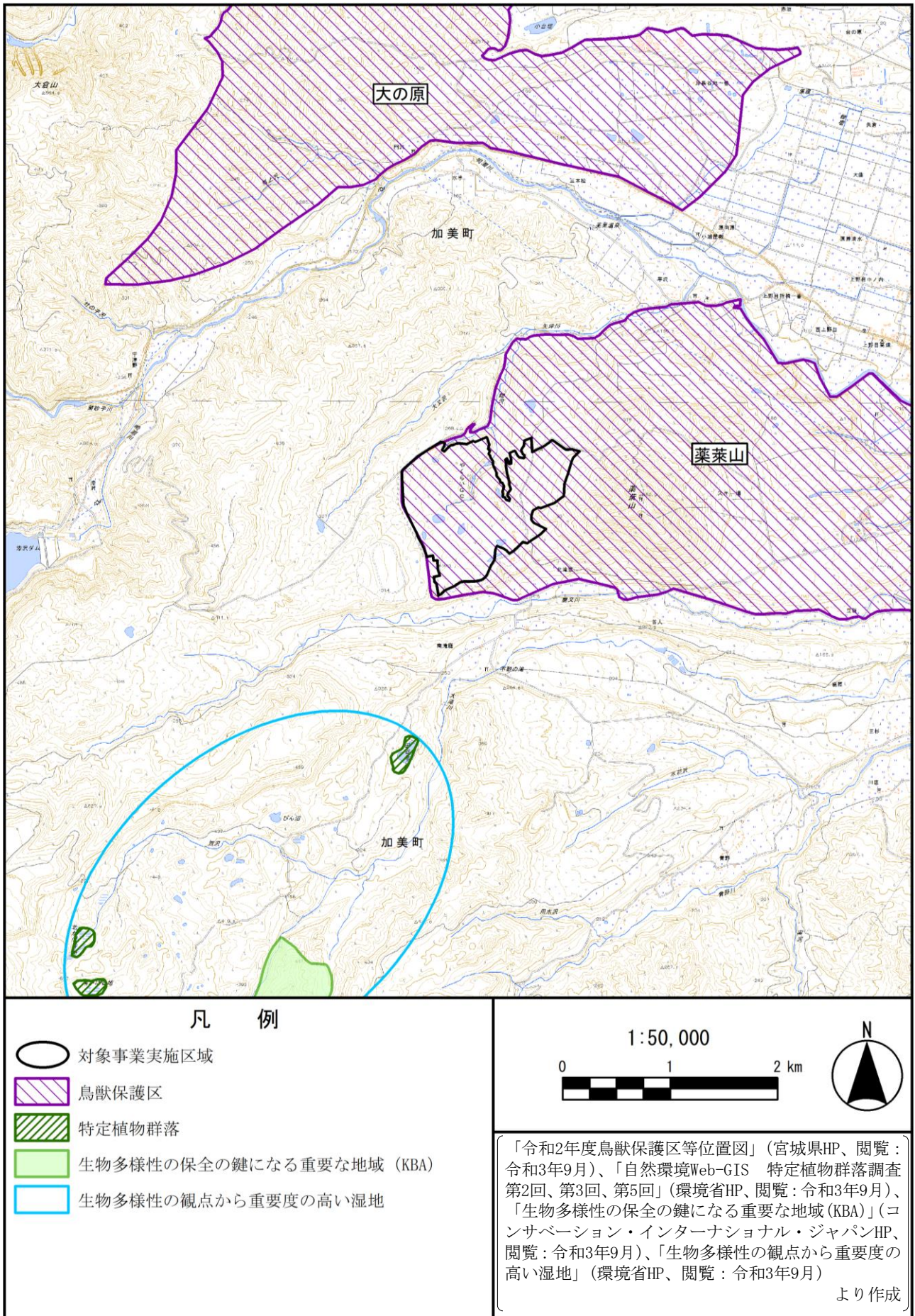


図 3.1-27(3) 重要な自然環境のまとまりの場

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

1. 景観の状況

(1) 主要な眺望点の分布及び概要

文献その他の資料調査の結果を踏まえ、以下の条件を勘案し抽出した。

- ・ 公的な HP や観光パンフレット等に記載されている情報であること。
- ・ 不特定かつ多数の者が利用する地点又は眺望利用の可能性のある地点であること。

対象事業実施区域及びその周囲の主要な眺望点は、表 3.1-38 及び図 3.1-28 のとおりであり、「葉菜山」、「漆沢ダム」が挙げられる。

表 3.1-38 主要な眺望点

名 称	概 要
葉菜山	標高 553.1m。県立自然公園船形連峰内に位置し、町のほぼ中央にそびえ、別名「加美富士」とも呼ばれている。登山口には整備された大駐車場があり、頂上まで 1.5km、徒歩で 40 分である。山麓は牧草地が広がり、眼下には大崎平野が一望できる。
漆沢ダム	鳴瀬川の源に築造されたダムであり、鳴源湖とも呼ばれている。湖畔には、いわなの里湖畔公園や唐府沢公園があり、駐車場、芝生広場、遊歩道及び四阿等が整備されている。見学会も行われている。

「加美町まるごと観光ガイド」(加美町観光まちづくり協会 HP)

「大崎地方ダム総合事務所」(宮城県 HP)

(各 HP 閲覧：令和 3 年 9 月) より作成

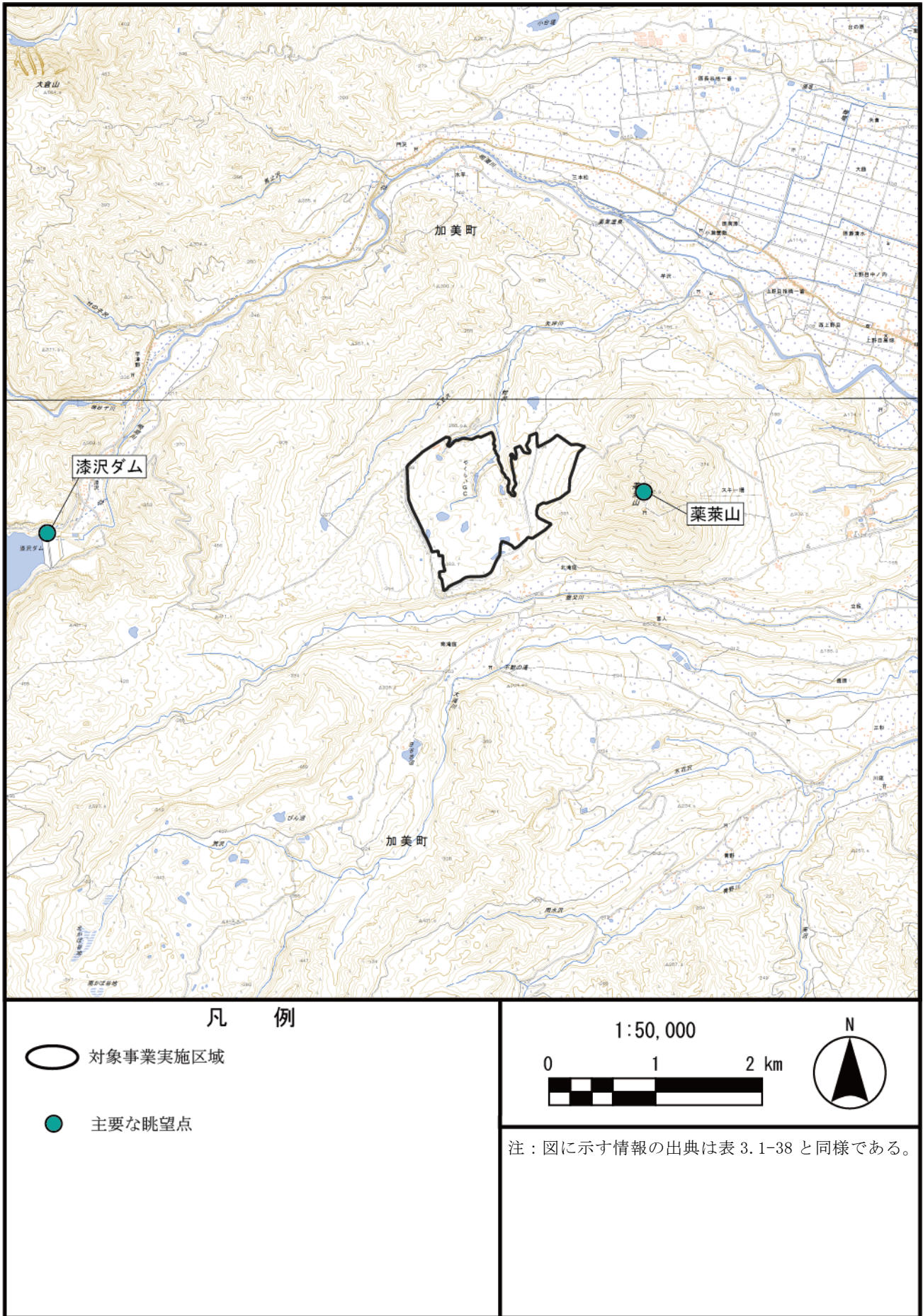


図 3.1-28(1) 主要な眺望点の状況

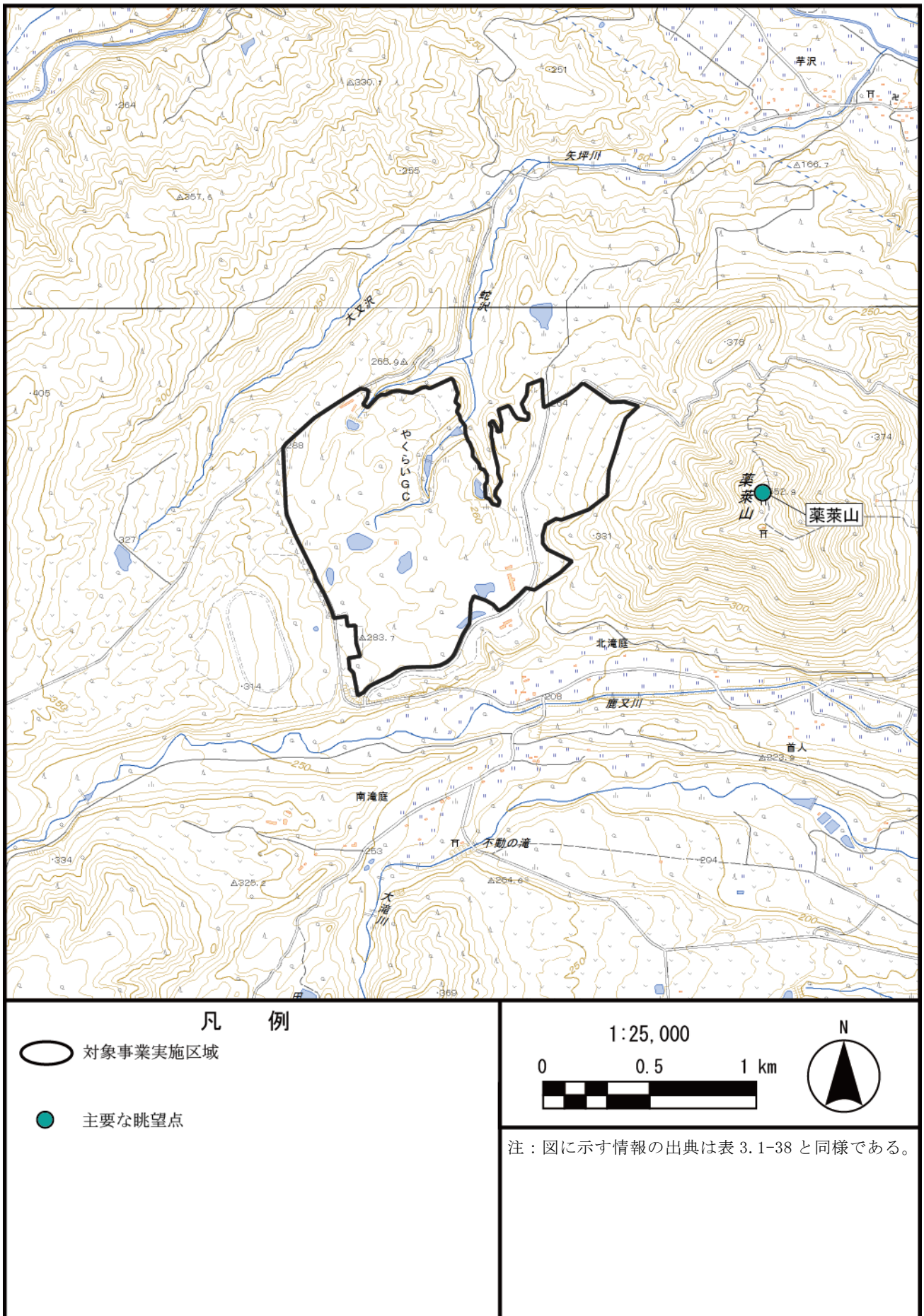


図 3.1-28 (2) 主要な眺望点の状況

(2) 景観資源

「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)による景観資源は、表3.1-39及び図3.1-29のとおりであり、「葉菜山(非火山性孤峰)」、「鳴瀬川門沢上流(峡谷・溪谷)」等7地点が挙げられる。

表 3.1-39 景観資源

区 分	名 称
非火山性孤峰	葉菜山
峡谷・溪谷	鳴瀬川門沢上流
滝	不動ノ滝
湖沼	田谷地沼
湿原	南かば谷地
	北かば谷地
	田谷地湿原

「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」
(環境庁、平成元年) より作成

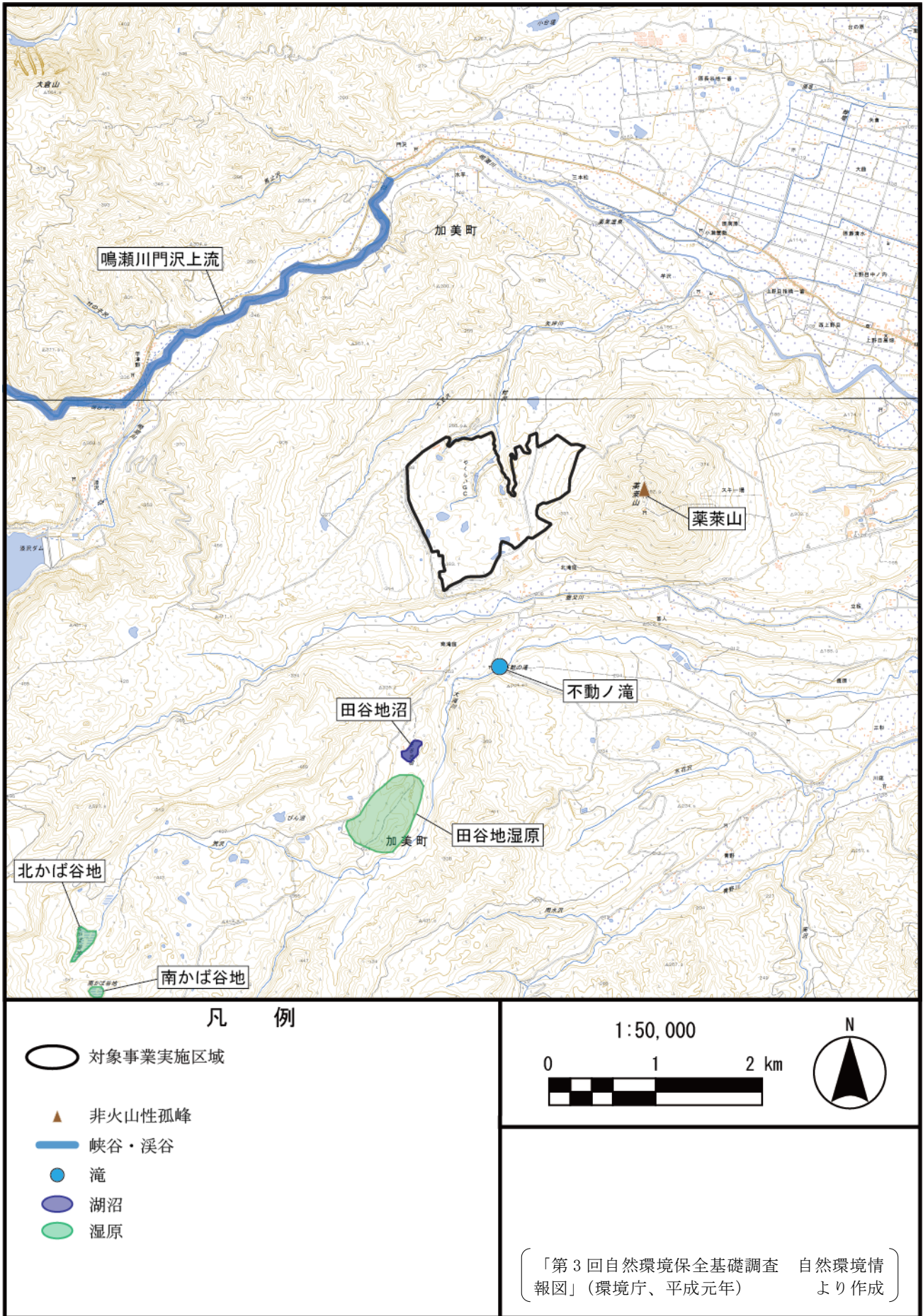


図 3.1-29 景観資源の状況

2. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の状況は、表 3.1-40 及び図 3.1-30 のとおりであり、「菓菜山（登山、散策、自然観賞）」、「ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート（サイクリング、自然観賞）」等が挙げられる。

表 3.1-40 人と自然との触れ合いの活動の場

名称	想定する主な活動	概要
菓菜山	登山 散策 自然観賞	加美町のほぼ中央にそびえ、その山容の美しさから別名「加美富士」とも呼ばれている山。登山口には大駐車場が整備されており、頂上までは約 1.5km、徒歩で約 40 分である。周辺には遊歩道、桜並木、栽培植物 400 種類からなる広大な庭園、パークゴルフ場等も整備されている。
大滝農村公園	キャンプ 自然観賞 散策	広葉樹林の木立の中にテントサイト 15 面が設けられ、管理棟、炊事棟、東屋、トイレ、アスレチック等も整備されている公園。例年 4 月から 11 月まで開園される。近くの「滝見の橋」からは「荒沢の大滝」を楽しむこともできる。
荒沢湿原	自然観賞 自然学習 バードウォッチング	700ha に及ぶ湿原地帯。環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている種を始め 556 種の植物が確認されているが、なかでもミズバショウの群生地として知られている。自然学習に利用されている「荒沢自然館」があり、バードウォッチングも行われている。
鳴瀬川	釣り 自然観賞	太平洋に注ぐ一級河川。奥羽山脈船形山系より水源を發し、仙台湾に注いでいる。上流はイワナやヤマメ、中流にはアユが棲む清流として知られている。 スケジュール：3 月溪流釣り解禁 / 5 月アユの放流 / 7 月アユ釣り解禁 / 11 月イワナ・ヤマメの放流
ジャパンエコトラック 菓菜山登山ルート	トレッキング 自然観賞	全長約 4.1 km のトレッキングルート。「菓菜山」を登るルートで、ルート上には「やくらいガーデン」をはじめとしたレジャー施設や飲食店も点在している。
ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート	サイクリング	全長約 40.2 km のサイクリングルート。菓菜山山麓から市街地を巡るルートで、一部区間は毎年開催されているサイクリングイベント「ツールド 347」のルートとしても利用されている。
ジャパンエコトラック シートゥーサミット 宮城加美町ルート	カヤック サイクリング トレッキング	カヤック約 3.0km、サイクリング約 13.0km、トレッキング約 1.5km のルート。清流鳴瀬川をカヤックで漕ぎ、田園風景の中を自転車で菓菜山を目指し、菓菜山山頂からは通ってきたルートを眺めることができる。
ジャパンエコトラック やくらい MTB ルート	サイクリング	全長約 31.6 km のサイクリングルート。標高差のある未舗装の林道をマウンテンバイクでチャレンジするルート上で、ルート上には「大滝農村公園」、「荒沢湿原」等がある。
ジャパンエコトラック 347「きずな」ルート	サイクリング	全長約 62.7 km のサイクリングルート。宮城と山形をつなぐ交易の道である国道 347 号を走るロングルートで、毎年開催されているサイクリングイベント「ツールド 347」のルートとしても利用されている。
ふるさと緑の道コース 5	散策 自然観賞	宮城県政 100 年を記念して、昭和 47 年に設定された道。そのうち「ふるさと緑の道コース 5」は約 37.7km のコースで、ブナ林内に点在する湖沼にはミズバショウやサワギキョウ等の湿性植物が多くみられる。

「加美町」（加美町役場 HP）
「カミナビ」（加美町観光まちづくり協会 HP）
「宮城県」（宮城県庁 HP）
「宮城まるごと探訪」（宮城県観光連盟 HP）
「鳴瀬川・菓菜山」（ジャパンエコトラック HP）
（各 HP 閲覧：令和 3 年 9 月）より作成

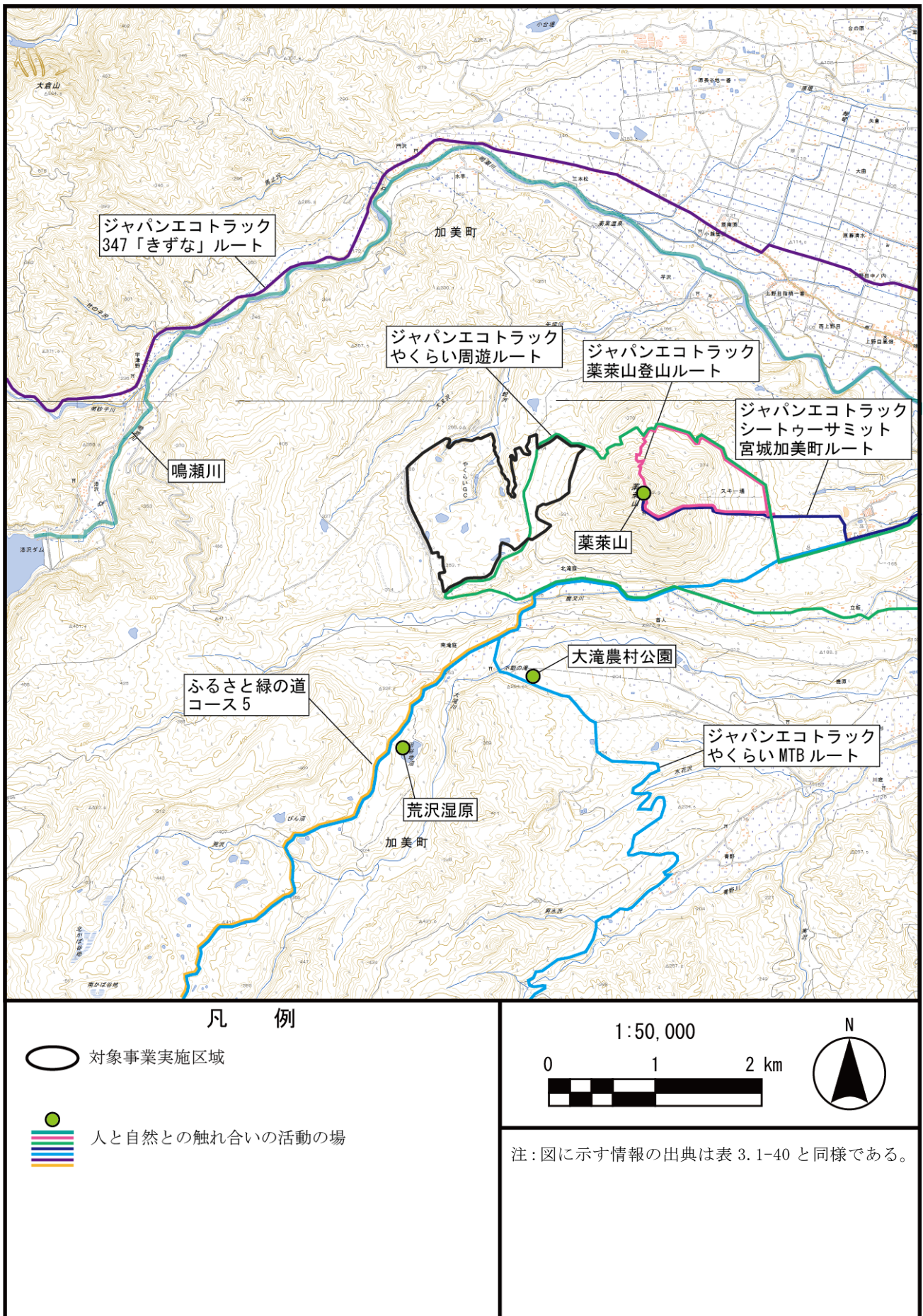


図 3.1-30 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

3.1.7 一般環境中の放射性物質の状況

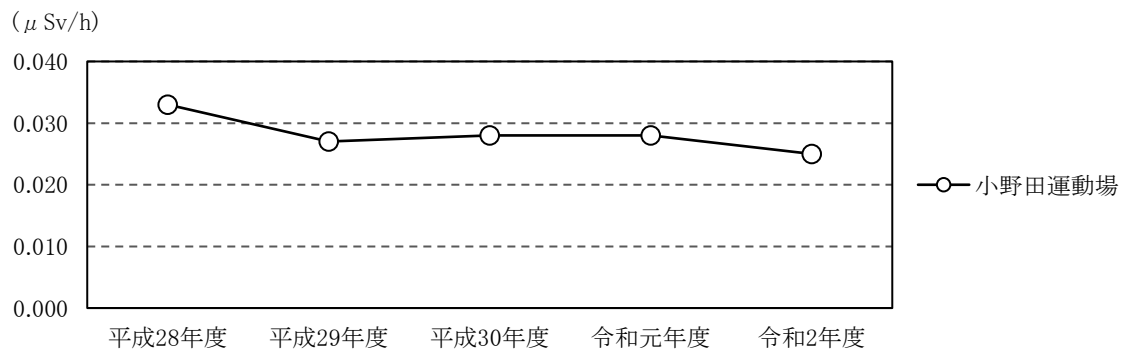
宮城県では県内の空間放射線量率の常時監視を行っている。「放射線モニタリング情報」(原子力規制委員会 HP、閲覧：令和3年5月)によると、対象事業実施区域及びその周囲における空間放射線量率の測定地点は図 3.1-32 のとおりであり、加美町の小野田運動場で測定が実施されている。令和2年度の空間放射線量率の年平均値は $0.025 \mu\text{Sv/h}$ である。また、過去5年間における年平均値の経年変化は、表 3.1-41 及び図 3.1-31 のとおりである。

また、対象事業実施区域及びその周囲における令和2年度の公共用水域の放射性物質濃度の測定結果は表 3.1-42、測定地点は図 3.1-32 のとおりである。

表 3.1-41 空間放射線量率の年平均値の経年変化

測定局名	年平均値 ($\mu\text{Sv/h}$)				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
小野田運動場	0.033	0.027	0.028	0.028	0.025

〔「放射線モニタリング情報」(原子力規制委員会 HP、閲覧：令和3年5月)より作成〕



〔「放射線モニタリング情報」(原子力規制委員会 HP、閲覧：令和3年5月)より作成〕

図 3.1-31 空間放射線量率の年平均値の経年変化

表 3.1-42 公共用水域における放射性物質濃度の測定結果（令和 2 年度）

水域名	地点名	採取日	試料		放射性物質濃度		
					放射性セシウム		
					単位	Cs-134	Cs-137
鳴瀬川水系	二ツ石ダム ダムサイト	令和 2 年 8 月 20 日	水質	表層	Bq/L	<0.95	<0.72
				下層	Bq/L	<0.82	<0.72
			底質		Bq/kg	<8.7	64±5.5
			周辺環境	土壌	Bq/kg	<9.6	68±7.3
		令和 2 年 10 月 21 日	水質	表層	Bq/L	<0.92	<0.93
				下層	Bq/L	<0.92	<0.93
			底質		Bq/kg	<9.8	51±5.3
			周辺環境	土壌	Bq/kg	<8.1	84±6.3
		令和 2 年 12 月 21 日	水質	表層	Bq/L	※	※
				下層	Bq/L	※	※
			底質		Bq/kg	※	※
			周辺環境	土壌	Bq/kg	※	※
	漆沢ダム ダムサイト	令和 2 年 8 月 20 日	水質	表層	Bq/L	<0.73	<0.78
				下層	Bq/L	<0.94	<0.89
			底質		Bq/kg	<8.9	24±3.7
			周辺環境	土壌	Bq/kg	<7.7	84±6.1
		令和 2 年 10 月 21 日	水質	表層	Bq/L	<0.87	<0.93
				下層	Bq/L	<0.92	<0.93
			底質		Bq/kg	<7.4	29±4.1
			周辺環境	土壌	Bq/kg	<6.9	50±4.6
		令和 2 年 12 月 21 日	水質	表層	Bq/L	※	※
				下層	Bq/L	※	※
			底質		Bq/kg	※	※
			周辺環境	土壌	Bq/kg	※	※

注：1. 「<」は、検出下限値未滿を示す。

2. ※；二ツ石ダムダムサイト及び漆沢ダムダムサイトともに、令和 2 年 12 月 21 日は積雪のため試料採取ができなかった。

〔「令和 2 年度公共用水域放射性物質モニタリング調査結果（まとめ）」
（環境省 HP、閲覧：令和 3 年 9 月）より作成〕

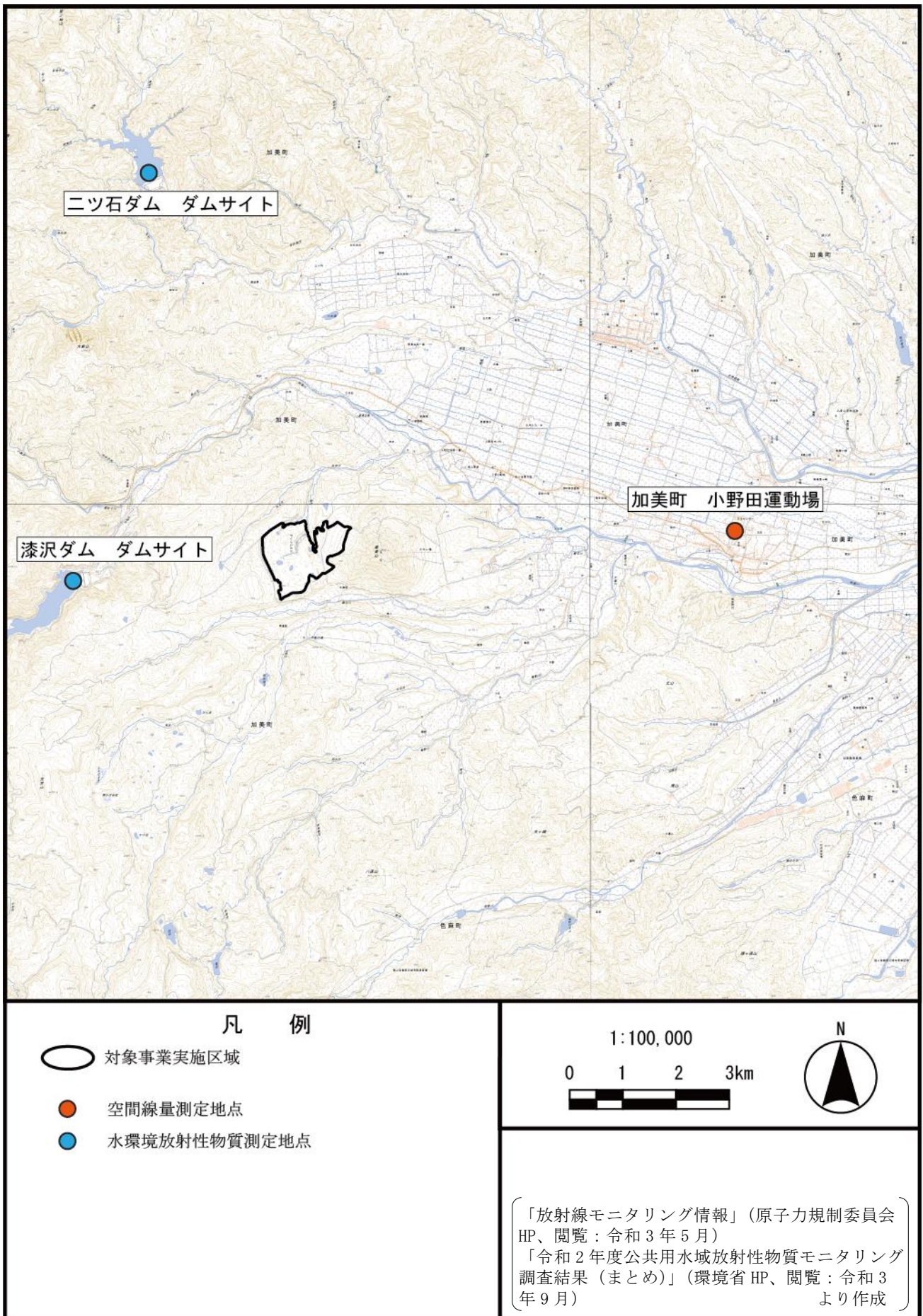


図 3.1-32 空間放射線量率測定地点及び公共用水域における放射性物質測定地点